

# 頌栄

No. 124

日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



## 聖霊の神殿である私たち

牧師 清弘 剛生

あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅ぼされるでしょう。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです。(1コリント3・16、17)

信仰を求め始めた頃、私たちの心には必ずといってよいほど、こんな問いがあったのではないでしょう。「わたしにとって神は必要か。信仰は必要か」。そしてその延長上に、「教会に行くことは、わたしにとって有益か」という問いもあったことでしょう。しかし、洗礼を受けて何年経っても、この考え方が変わらな

いとすれば、それは深刻な問題です。教会が自分のために存在しているかのように見えるか、パウロは私たちに問いかけるでしょう。「あなたがたは知らないのですか」と。

私たちは知らなくてはなりません。私たち「教会」は神の神殿なのです。神殿は人によって建てられるとしても、人間のものではなく、神のものであり、神のために存在しているのです。「聖なるもの」とは、神のものであるということに他なりません。ゆえに、あたかも私たちのためのものであるかのように扱ってはならないのです。「神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅

ぼされるでしょう」——この言葉を、私たちは畏れをもって受けとめなくてはなりません。私たちは、自分たちが神の神殿とされているという事実に対する畏れを、決して失ってはならないのです。

しかし、もう一方において、そこにこそ真の喜びもあるのです。キリストによって贖われ、罪を赦された私たちが形づくる教会が、また私たち一人一人のこの体が、神の神殿とされ、神の霊が宿ってくださる。まさに驚くべき恵みではありませんか。

今年の年度主題は「聖霊の神殿である私たち」です。聖霊なる神が私たちの内に住んでおられる——この尊い事実を胸に、共に歩んでまいりましょう。

(4月「年度主題を覚えてささげる礼拝」より)

## ペンテコステに思うこと

秋田 浩之

私が教会に招かれ、洗礼を受けるきっかけになったのは、父親の死でした。今から約27年前、心筋梗塞に襲われた父は急きよ、手術を受けました。一命はとりとめました。が、意識が戻ることはなく、約2カ月後に天に召されました。

その間、私の身に不思議なことが起きたのです。ある日、父の容態は悪化し、ついに危篤に陥ってしまいました。精神的に追い詰められた私は、思わぬ行動に出ました。藁にもすがる思いで、小学校の時、日曜学校に通っていた教会を訪れたのです。

呼び鈴を鳴らすと、牧師先生のご夫人が扉を開けてくれました。何十年ぶりにもかかわらず、私を覚えていてくれて訪問を喜んでくれます。ところが、私が父の容態について説明し、「牧師先生に祈ってほしい」とお願いすると、突然、表情を曇らせ、「もう少し早かったら……」と泣き崩れてしまったの

です。実はその日、病に伏していた牧師先生が命を引き取ったばかりだったのです。

私は悲しみに暮れ、教会を後にしようとしています。ところがその時、先生の柩を乗せた車が、ちょうど教会に着いたのです。ご親族や信徒たちと一緒に、私は先生と対面しました。そして私の父のために、信徒の方々が祈りを捧げてくれました。

その後、教会から実家に帰る路上で起きたことは、決して忘れることができません。心の奥底から深い安どの感情がこみ上げ、涙が止まらなくなりました。悲しみとは正反対の、それまで経験したことがない喜びの涙でした。安心しなさい、私がいつもそばにいるのだから――。そんなメッセージが、天から降ってきたような感情に包まれました。

それから急低下していた父の血圧が回復し、容体は持ち直します。思いがけないできごとに医者も驚き、喜んでくれました。そして約1カ月、父は命を保つことができたのです。

私が頌栄教会の門をたたいたのは、そんな体験の直後でした。どんなに悲しく、厳しいときにも神様は私たちを見守り、導いてくださる。そんな確信をもって生きていきたい、と心を新たにしています。



## 私が求道者だった頃

大きな手に導かれて

上村 久子

代々曹洞宗の家系で、新年の神社参拝を欠かさない家庭で育った私ですが、何故か家族の中でただ一人、洗礼を受け、教会の一員となりました。自分でも不思議です。四十年前程私は、夫の海外赴任でクウエートに同行したのですが、その時の出来事が始まりかもしれません。

クウエートはイスラム教の国で、毎日決まった時刻に街中にコーランが流れる中で生活していました。食料品をはじめ様々な品物が、地理的に近いヨーロッパから輸入されており、クリスマス前になると、美しいクリスマスグッズが店頭に並びました。私は、キリスト教にもイスラム教にも全く関心はなかったのですが、なんとなく可愛いからということ、イエス様を天使たちが囲んでいる際の置物を買いました。そして、まだ小さかった娘を喜ばせるために、クリスマスツリーと

その厩を飾りました。

クウエートでは、土地柄小さな子供を持つ家庭は、お手伝いの女性を頼むのが習慣で、私の家もインド人の女性をお願ひしていました。彼女は熱心なクリスチャンだったそうで、私が飾った厩を見て、私をクリスチャンだと勘違いしたのだと思います。たまたまクリスマスに、ローマへ家族旅行をすることになった私に、クロスを買って来て欲しいと頼んできました。当時の私は、教会へ足を運んだことなど全くありませんでしたから、そういう宗教的なものをどうすれば買えるのかと思いましたが、彼女にそれを伝えたかったのですが、英語力の無さから、引き受けてしまいました。気掛かりなまま、ローマの観光の定番として訪れたサンピエトロ大聖堂で、土産として売られていたクロスをプレゼントしました。彼女はますます、私をクリスチャンだと思ってしまったようでした。

それから五年後、私は、夫の海外赴任で香港に行くことになり、そこで頼まれて、赤十字のボランティアに参加

しました。その歓迎会で計らずもお隣席に座った方から、頌栄教会を紹介していただき、清弘先生から洗礼を受けることになりました。

私は自分の意思というより、何か大きな手に運ばれて、導かれて来たように感じています。



## フィリピン宣教報告

ベルトラン小川文子

頌栄教会の愛する皆様、いつもお祈りありがとうございます。先日はフィリピンから久しぶりに一時帰国し、共に礼拝をお捧げすることができました。変わらない皆様に迎えていただき、懐かしさで胸がいっぱいになりました。

午後のフィリピン宣教報告会にも多くの方が参加してくださり、現地の様子を共有することができたのは大きな喜びでした。

ビサヤ語の賛美を皆で歌って、飛び跳ねて外で賛美している様子や子供伝道の様子を画像で見ました。『家の教会運動』は、牧師主導でなく皆が教会を色々な場で作っていく方法で、ボホールに500教会を目指しています。といっても今はまだ5教会で、その半数は空き地や道端での路傍礼拝です。さすが南国。路上子供会も週に3回ありますが、最近では子供たちが子供たちをリードして勝手にやってくれています。

質問：「何語を話しているんですか？」

「公用語はタガログ語ですが、普段は地元のビサヤ語と英語を混ぜて使います。その環境なのでうちの子はあまり日本語ができません」

「子供たちが神様に対して素直に育っているのはなぜですか」

「教会で愛されて育ったのが大きいと思います」

「献金は足りているのですか」

「日本から月15万円送っていただいております、オンラインで通訳の仕事もしているので大丈夫です」

「ゴキブリは大きいですか」

「…普通です」

「気候は？」

「季節は二つあって、『暑い』と『とても暑い』です」。

終始笑いの絶えない報告会でした。

以前ボホールに来てくださった方々も思い出を分かちあってくださいたりして、ボホールがさらに身近になったのではないかと思います。また皆様、ぜひいらしてください！

皆様の祈りを通して神様がフィリピンの地に偉大な御業を起こしてくださっているのを、心より感謝して。



## ベルトラン小川文子宣教師報告会

中野 みどり

3月22日フィリピンから一時帰国をされていたベルトラン小川文子宣教師による特別礼拝があり、その後、地下ホールにて報告会がありました。その時の感想をお伝えいたします。

私は、何十年も前ですが、文子さんが頌栄教会の青年会の頃の様子を覚えています。いつも穏やかな笑顔で、回りを温かく包んでくださっているようでした。

その変わらない雰囲気を今回も感じられたことをとても嬉しく思いました。

宣教師になられて、フィリピンのボホール島に導かれ20年近く伝道をされてこられたことは、本当に信じられないようで、改めて心から感謝です。住んでおられる所は、それはそれは自然が美しい島のようにですが、ガスや水もない中、日々様々な困難や災害を乗り越えて伝道をされてきました。

現実にはなかなか厳しい環境のよう

ですが、その中で4人のお子さんを育てられているのです。

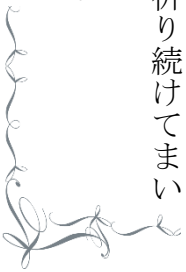
子供さん達を育てる大変さを尋ねると、文子さんは、「東京ではとても育てられないです、あちらでは教会の皆さんと一緒に育ててくれるから、」と、笑いながら答えてくれました。

そのおおらかさ、また、ボホール島の家の教会の皆さんとの自然体の信頼関係をうかがい知って羨ましい気持ちになりました。豊かさとは何か？を考えさせられるひと時でした。

ご家族と共に各地で家庭集会を続けられ、その中最近7か所の集会が「家の教会」になったそうです。そして、目標は、「家の教会」を50ヶ所に広げることだそうです。

また島に戻られ、宣教師のご主人と共に伝道活動を続けていかれるベルトラン小川文子宣教師の上に、またご家族、「家の教会」の方々の上に神様の豊かなお恵みと祝福がありますよう、これからも応援し祈り続けてまいります。

とても良い会でした。



## イースターおめでとうございます

金子 宏美

今年四月五日にイースターを迎えました。初めていらした方々も含め、多くの方々と共に礼拝をお捧げいたしました。清弘牧師からは「絶望を押し流す圧倒的な神の恵み」という説教題で神さまのみ言葉を聞くことができました。

礼拝後は階下ホールにて祝会が開催され、こちらにも多くの方々が参加されて、楽しいひと時を過ごしました。祝会の中では、教会学校の子どもたちの進級をお祝いすることができ、一つ上の学年に進む子どもたちの成長を神さまに感謝いたしました。また、教会学校の先生方の普段のお働きに感謝いたします。一年はあつという間です。私たちも日々あることを当たり前と思わず、いつも神さまが備え、見守ってくださいていることを思い、これからも祈り、歩んでいきたいと、改めて心に留めました。

子どもたちが歌い、大人たちも歌い、

さらにみんなで輪唱。イエスさまのご復活をこんなにも楽しく、賑やかにお祝いできた瞬間でした。

この会を開催するにあたり、美味しいスープやお食事を準備してくださった、ワーキンググループの皆さま、司会をしてくださった、太田恵子姉・岩崎英美子姉、他にもお支えくださった多くの方々、このような温かい会を本当にありがとうございました。

そして、すべてを神さまに感謝いたします。



## 4月の教会学校

### 児童部会



いつも教会学校のためにお祈りくださり、ありがとうございます。

今年は、イースターとともに新年度が始まりました。進級進学した子どもたちと、教師も心新たにスタートしています。その中で、新しい試みを2つご紹介します。

ひとつはイースター祝会の中で行った進級祝福式です。幼児クラス、小学生クラス、中高生クラス、それぞれの子どもたちを紹介し、清弘先生に祝福のお祈りしていただきました。そのあと「Celebrate Jesus」を英語で賛美しました。ギターと打楽器の伴奏も交えて、後半は会場のみなさんと一緒に賛美しました。温かい笑顔と拍手に包まれ、感謝のひと時でした。

それから4月19日には、初めて合同分級を行いました。15年前の東日本大震災の話をしました。中学生以下の子どもには、生まれる前の遠い話になりがちですが、今もその悲しみの中にいる人や、数多く

の困難があることに心を向け、とりなしの祈りを心合わせておささげしました。各クラスの子どもの数が少ないことや、子ども同士の交わりを大切にしたいことから、今年は積極的に合同分級を行っていきたいと考えています。

これからも、ともに子どもたちを見守り、信仰の成長をお祈りいただきたく、よろしくお願いします。

成人クラスは、礼拝後にホールで行っています。出エジプト記の学びを5月で終え、6月からはレビ記に入ります。いつからでも、どなたでもご参加ください。



イースター祝会後の子どもたち



成人クラス



4月19日 合同分級



イースター祝会の様子

天に召された方

故小島千之兄 九十一歳

(二〇二六年二月二十七日召天)

小島千之兄は、一九三四年八月十八日、小島家のご長男として大阪にお生まれになりました。青山学院の中等部・高等部を経て慶應義塾大学ご卒業後、久保田鉄工にエンジニアとして入社。一九六五年に紗恵子さんとご結婚され、二人のお子様、四人のお孫様に恵まれました。若き日に青山学院で聖書に親しまれた千之兄でしたが、洗礼を受けられたのは七十三歳の時でした。すでに教会に通っておられた松原小学校時代の同級生、田代田鶴子姉と共に洗礼準備を進められ、二〇〇七年のクリスマス礼拝にて共に受洗。「常に感謝の気持ちを忘れずに生きてゆきたい」と頌栄誌に書かれた言葉とおり、感謝をもって信仰の道を歩まれ、去る二月二十七日、九十一年半の御生涯を全うして、愛する主のみもとに召されました。ご遺族の上に深い慰めがありますように。

## —今後の予定—

- 5月24日(日) 聖霊降臨祭
- 5月31日(日) 三位一体主日
- 6月14日(日) 花の日・子どもの日
- 8月2日(日) 平和主日